

令和7年度 第1回小平市社会教育委員の会議要録

と き：令和7年4月17日（木）午前9時30分～午前11時30分

ところ：市役所6階 大会議室

1 出席者

小平市社会教育委員 9人（1人欠席）

傍聴者 なし

2 内 容

<議題>

資料に基づき、事務局から説明を行った。

- (1) 令和7年度小平市社会教育委員の会議等の開催日程について
- (2) 令和6年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回理事会について（報告）
- (3) 令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会について
- (4) 令和7年度小平市社会教育関係団体に対する補助金交付について

<事務局報告>

各課・各館より、実施事業等について報告した。

【教育部】

- (1) 令和7年度各課・館事業概要等（地域学習支援課、公民館、図書館）について

【地域学習支援課】

- (1) 第18回多摩六都ヤング・ダンスフェスティバルについて（報告）
- (2) 令和6年度青少年リーダー養成講座について（報告）
- (3) 令和7年度青少年リーダー養成講座について

【公民館】

- (1) 公民館主催イベント（3月）について（報告）
- (2) 公民館主催イベント（5月）について

【図書館】

- (1) 喜平図書館の臨時休館について
- (2) 図書館主催イベント（2月、3月）について（報告）
- (3) 開館50周年記念事業について
- (4) 令和7年度こだいらこども読書月間について

3 議題及び事務局報告についての意見・質疑応答

＜令和6年度小平市社会教育関係団体に対する補助金交付について＞

○委員 子ども会育成者連絡協議会について。登録団体数が減っていると思うが、交付額が昨年度と同額である。その理由を伺いたい。

○事務局 団体数は減少傾向であるが、協議会の活動内容は、例年と同程度の内容を実施していることから、交付額については、昨年度と同額となっている。

○委員 参加団体数に基づく金額ではなく、協議会の活動実績に対する交付額として理解した。

○委員 鈴木ばやし保存会について。参考資料で示されている修繕費に対して、保存会への補助金額が少ない。補助金交付後に、例えば道具の修繕が必要となったときに、必要な経費として手当てすることはないのか。必要なものであれば必要な措置を講ずるべきであると考えている。意見である。

○事務局 委員からの意見として担当課へ伝える。

○議長 令和7年度の社会教育関係団体に対する補助金の交付に当たっては、本会議での意見等も踏まえ適正な執行をお願いする。

＜事務局報告＞

○委員 資料5-3の2ページ「ホッとHOTこだいらファミリーデイ」事業について。この事業は一般家庭が対象の事業であるか。東京都では養育家庭をほっとファミリーと呼んでいる。東京都では、養育家庭をその愛称で呼びましようとの働きかけを行っている。名称が似ていることから混在することはないか。養育家庭の支援に携わる者を見ると、名称の類似に迷うこともあるかもしれないと思い質問した。

次に、資料14の布の絵本の展示について。中央図書館の親子ブースに箱があり、その箱を開くと布の絵本が入っている。そこに展示されているものと一緒のものであるか伺いたい。布の絵本を一度見たことがある。よくできており、小平の名産など小平に関する絵本もあり、素敵なものである。ぜひ多くの人に触れてほしいと思う。

○事務局 「ホッとHOTこだいらファミリーデイ」事業について。一般家庭を対象としている。こどもとその家族が一緒に行動するきっかけづくりの側面支援として平成14年度から行っている事業である。

○事務局 布の絵本の件について。今回展示したものは中央図書館にあるものと思われるが、小川西町図書館で保管しているものもあり、そちらも展示に活用している。また、新たに作成したものを寄附いただき、少しずつであるが、年々増えている。

○議長 ホッとHOTファミリーデイ事業について。小平では以前から行われている事業である。私が社会教育委員として初めて委嘱された頃に開始された事業であると認識している。東京都の養育家庭の愛称が始まる前のことなのではないかと思う。ホッとHOTファミリーデイ事業は、かなり長く続いている事業である。青少対まつりで、同事業の周知のために使用しているのぼりは、際立っているが、経年劣化で、その軸やバナーの上が折れているものがある。また、鍔

びついて開かないものもある。一斉に交換することはないが、申出があれば交換していただくとありがたい。意見である。

○委員 資料12の、講演会「A I時代におけるこどもの読書と学校図書館の役割」について。感想である。講演を聞いてその内容が十分理解できた。A I、I C T時代に子どもたちに求められるものは、自ら考えて課題を設定して解決する力が大事であること。そして、そのためには読書が一番だという結論であると理解した。また、紙の本と電子書籍とを使い分けて学び合うことに関して、紙の本が優れていることとして、①質感や操作性、視覚性の特徴が電子書籍と比較して優れていること、②紙の本による読書は、デジタル化された資料と比較して、情報を補うために読者が文脈とか意味を補完する力を養う効果があることを挙げられていた。それらの点について、十分納得できた。これからもA IやI C Tの講演をお願いしたい。

次に、資料5-1の10ページの34番、部活動地域連携・地域移行の推進について。新規事業として、今回、予算計上されている。この件に関連して、以前テレビで、神戸の取組として「K O B E◇K A T S Uクラブ」の活動が紹介されているのを見た、神戸ではクラブ活動を地域に全部任せているとのことであった。教員の負担が減ることは、子どもたちと教員とが関われる選択肢が多くなる点では、とてもいいことだと思うが、予算のつけ方や運営がとても難しいと感じた。今回は、これから小平も始めていきますとの表明だと思うが、どのようなことから始めていくのか、地域とこれからどのような連携をしていくのか伺いたい。

○事務局 部活等地域連携・地域移行については、指導課の事業である。これから推進していくことは聞いている。指導課へは委員から意見があったことを伝える。具体的な内容は、指導課に確認してお伝えしたい。

○委員 公民館と図書館について、それぞれ質問がある。

まず、公民館について。資料の5-4の事業計画の中の基本方針の4番「時代の変化に対応する」は、抽象的な表現である。具体的な内容について伺いたい。

次に、推進事項の中の6番「若い世代の公民館利用の推進」について。ティーンズ委員会など、小平市は、いろいろ頑張っていて、よくなってきていると思うが、それでも、推進の進展には地域差があると感じている。例えば市内には大学が多くあることから、学生同士が、さらに交流を深めていけたらいいと思う。今後の活動については、その思いで見守っていく。意見である。

次に、図書館について。資料5-6の事業計画の中の電子図書館の開設について。電子図書館がいよいよ開設されることを聞き、とてもうれしく思っている。ぜひこれを進めるに当たって利用者の声や、また逆に利用したくないという意見も含め、きめ細かく声を吸い上げて小平ならではのいい取組ができることを願っている。これまでの会議の中で電子図書館について言ってきた。都内の実施状況なども参考として、いいものにしていこうことを願っている。感想である。

○事務局 基本方針の件について。時代の変化に対応することについては、まず一点として、公民館を利用する方の高齢化がある。次の一点として、複合化がある。これまで小平市では、公民館活動が活発に行われてきたが、これからは利用者、職員も含め時代の変化に対応することを考えていく時期であると考えている。それらのことから、基本方針に入れている。

また、「若い世代の公民館利用の推進」について。委員からは意見として承ったが、この件について補足したい。若い世代と公民館の連携の一つとして、公民館の運営審議会がある、審議会に現役の大学院生に一人入っていただいて意見をいただいている。東京学芸大学の学生である。学生からは、学生をもっと使ってほしい、講師として教授を使ってほしいなど、様々な意見を出していただいている。今までの公民館にはなかったような意見もこのような形で吸い上げている。

また、事業の講座を研究するために各館で検討委員会を行っている。昨日、小川公民館の検討委員会に出席した、その委員会では、白梅大学の課長が入り、積極的に学生のボランティアを募っていただいたり、その募っていただいた意見で事業企画に対して意見を出していただいたりしている。このように、様々なところで交流している。これらをいい方向に市としてつなげていければと考えている。

○委員 感想を2点申し上げる。

資料6のヤング・ダンスフェスティバルについて。毎年拝見している。年々、ダンスの内容も技術も向上しているように思う。また、役割分担が徹底しているのだと思うが、気持ちよく案内してもらって見ることができた。自転車置場の管理も、会場整理も、学生の皆さんがとても礼儀正しく対応しており、打合せがしっかりできていると感じた。開演時間後に入場したので、しばらく客席入口のドアの前で待っていた。そのときに係の高校生と話をした。高校生から、部活動は厳しいけれども楽しいなど、いろいろ話を伺うことができた。このような発表の場があつていいねという話もでき、とてもよかった。演技内容で優劣をつける発表の場もあるようであるが、このヤング・ダンスフェスティバルのように優劣をつけず、どの学校も元気いっぱい踊る姿が見ることができる発表の場は素晴らしいと思う。当日、元気をもらって帰ることができた。この事業はぜひ続けていただきたいと思う。

次に、資料9のオール公民館まつりについて。2日間で5,500人近くの来場者があつたことは、とても素晴らしいと思う。前年度5日間で5,000人程度であつたので、2日間でこの入場者数であつたことから魅力的な内容であつたことが分かる。世代を超えた様々な展示や舞台、実演があり、とても素晴らしいと思った。来年度も2日間の予定で行うのか伺いたい。

○事務局 オール公民館まつりについて。令和6年度は試行として、関係者の負担を減らすという意味で2日間に凝縮した。昨年度の試行を踏まえ今年度の実施内容を検討する。

○委員 資料5-6の5ページ、図書館のブランディングについて。グッズ販売とか各図書館内掲示物の統一化などの記載がある。実際にどのようなことをしているのか伺いたい。また、公民館や社会教育施設の利用者の年齢に偏りがあることが話題になっている。若い世代があまり利用していないことも話題になっている。そのため、これらの施設が、高校生、大学生などの学生や、子育て世代に関わる世代を呼び込む仕組みをつくってもよいと思う。そこで、これらの施設と関わりが少ない、例えば、社会人になって間もない世代の人や若手の単身者を呼び込むために、どのようなブランディングをすればよいのかが課題になると思う。ブランディングについて、図書館としてどのように考えているのか伺いたい。

○事務局 ブランディングとして、実際にやっている具体的なものは、まず館内のサインがある。

こちらのフォーマットづくりとして統一感を出して掲示をしている。それらが継続的に館内に掲出されることで継続性というものを出す取組である。

次に、利用案内、館内マップのリニューアルがある。情報をあまり詰め込み過ぎず、新規利用者の方に分かりやすいものを作成することを主なターゲットにしている。具体的にはアイコンやイラストを用いて分かりやすくする取組である。

次に、オリジナルグッズの作成である。こちらは、クリアフォルダーやトートバッグを作成して、図書館に対する愛着の醸成を図っていく取組である。

次に、図書館のキャラクター作成や、イベントとしては「ビンゴで探す世界の本」を平成29年度に実施している。

次に、パスファインダーの作成である。調査研究を行う際の手引きとなるパスファインダーを作成して配布を行っている取組である。

今後の課題としては、これまで以上に情報発信等、愛着醸成のためグッズや利用案内をさらに活用し発展していくような形で取組を続けていくことと、中央図書館だけでなく、各地区図書館とも連携し、統一的な展開を図っていくことである。

○委員 先日、コミュニティ・スクール委員の委嘱状交付式の後に事例発表会議があり参加した。統括コーディネーターの立場で参加し拝見することができた。すばらしい発表であった。コミュニティ・スクールが一堂に集まるという機会が今までなかったので、様々な学校の取組を聞くことができ、大変よかったと思った。発表会の最後に、講評があった。講評では、社会教育委員の会議でまとめた調査報告書について触れることがなかった。

その報告書は、社会教育委員の会議の自主研究の成果としてまとめたものである。内容は、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について研究したものである。その報告書の内容は強く印象に残っている。報告書では、学校の活動について、各学校にアンケートを取り、各校の現状を踏まえ、社会教育委員として、これからのコミュニティ・スクールと地域学校協働活動についての意見をまとめている。そのため、この報告書の内容に触れられなかったことが残念に思った。

資料5-2の組織機構図では、コミュニティ・スクールは指導課が担当であったが、それぞれの担当課の皆さんがつながり、いろいろ情報共有や提供などをしてくださるとさらにより取組になると思う。

次に、公民館のイベントの日程について。近隣の学校の行事なども加味されているのか伺いたい。よさこいの活動に関わっているが、公民館から、公民館まつりでよさこいの発表ができるか依頼を受けた。公民館まつりの日程は小学校の運動会の翌日に開催されるとのことであった。前年度は、運動会の翌日の開催日であり、雨天のときはその日が開催日になるので参加できないとお伝えした。今年度も同じ日程で組まれているので今年もまた発表はできませんとお伝えする予定である。土曜日には学校公開が重なることもある。学校の行事を加味して日程を決定しないと、残念なことになることもあると思う。

○事務局 コミュニティ・スクールについて。コミュニティ・スクールは指導課が担当しており、

地域学校協働活動、地域教育コーディネーター等は地域学習支援課が担当していることから、両者の連携が必要であることと併せて課題であると思っている。今年度は、そのことを皆さんにお伝えし、会議の場では、お互いがやっていることをまずは知ってもらおうとお話ししている。両者の連携が進むことで、どちらの事業も充実していくと考えている。

次に、今年度4月から市立小・中学校全校がコミュニティ・スクールとなった。これまで徐々につなげて進めてきたことを、今後は、さらに横につながっていく必要がある。委員の指摘のとおり、様々な学校でどのようなことを行っているか、知る必要があると思っている。そのため、各学校から資料を出してもらい一つの冊子にまとめて配布する取組や、今回行った事例発表を、何年かかけて全校発表するなど、少しずつでも情報共有していければいいと思っている。コミュニティ・スクールについては、今年度始まった学校もあれば、開始して19年目に入る学校もある。そのように経験値の違う中で、お互いに、どのように成熟していくかが今後課題になると認識している。

○事務局 公民館まつりの日程の件については、今後、その点も踏まえ調整していくことを考えている。

○委員 公民館だよりについて。4ページ目に「みんなでつくる音楽祭」に小平実行委員の皆様が内閣総理大臣官邸において賞を受賞されたことに触れられている。このことについて、教えていただきたい。

○事務局 「みんなでつくる音楽祭」は昨年、第11回の開催となった。これまで長年バリアフリーで誰もが参加できる趣旨で取り組んできた。バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰制度があることから、今回、推薦の対象として挙げたところ、推進功労者として表彰された。表彰を受けることで活動が注目され、若い世代に知っていただく機会となること、さらに活動が活性化する機会となることを考えている。

○委員 電子図書館について。とても楽しみにしている。これは、図書館の端末を利用して電子書籍を見るものであると理解した。在宅で使えるものではないと理解した。図書館での利用となると、利用希望者に対応できる数の端末を、図書館に配備する必要があると思うが、説明をいただきたい。

○事務局 電子図書館については、小平市の図書館で利用登録を行っている市内在住・在勤・在学の方が図書館のホームページからログインし、電子書籍、電子雑誌、電子新聞を利用するものである。内容は、電子書籍、電子雑誌、電子新聞であり、書籍は2,000冊程度、雑誌は7,000冊程度取りそろえる予定で実施する。

○委員 コミュニティ・スクール委員の辞令交付式後の発表について。昨年度から始まったと認識している、昨年度と比較して、その内容が徐々に充実していると思った。しかし、最後の講評では、一体的推進というところまで話していただきたかったと残念に思っている。コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進することがとても大切なことだと、座長として自主研究で勉強したので、話していただきたかった。社会教育委員の会議の自主研究で整理した内容では、コミュニティ・スクールはあくまでも話をする、自転車だったら方向を定める役割で

あり、その話し合った内容を実行に移すこと、活動することが、地域学校協働活動の役割であること。そして、その2本柱がしっかりしていることがとても大切なことであるとまとめた。コミュニティ・スクール委員の皆さんにも知っていただきたかったなと思った。

次に、配付資料である人権啓発学習資料「みんなの幸せをもとめて」について。これは部落差別、同和問題についての冊子であるが、これを見たとき、まだこのように啓発しなければいけないこと、そして差別がまだ根強く残っていることについて残念に思った。冊子を読んでも、冊子を出すことで、今まで差別を知らなかった人が、差別を知ること、いかななものかという意見もあることが書かれていた。しかし、差別がある以上、正しいこと、本当のことを知ることがとても大切であること、そして、このような冊子が今でも出されていることに対して、差別は本当にみんなで取り組んでいかなければいけない問題であると感じた。

○委員 今回配付された教育委員会だよりの記事について。小学校通学路安全ボランティアの募集についての記事があった。見守りのボランティアについては、各学校でもそれぞれで募集しているようである。もし、このような記事として掲載するのであれば、例えば、ワンワンパトロールを募集しますなどの内容で、学校を問わずに呼びかけることにより、様々な場所で見守ってくださるサポーターが増えるのではないかと思う。ぜひ呼びかけの工夫をしていただくことを検討してもらいたい。